

「書くことから」

このコラムの原稿は毎月20日が締切です。締日が近づくと、今月は何を書こうかと頭を悩ませます。昔から文章を書くのが苦手で、子どもの頃から読書感想文や作文、小論文など、400字詰め原稿用紙を前にすると手が動きませんでした。どうやってこの原稿用紙を埋めようか、タイトルは3文字空けて、名前を書くのに1行空けて、また1行空けて、5行目から書き始め、途中はやたら改行を多くする。読書感想文に至っては、ほとんどあらすじの書き写しでスペースを稼ぐことを考えたり、今思えば姑息なことをしていました。大人になってもこの苦手意識は変わりません。

社会人になってから、コピーライターの人と一緒に仕事をするのが多くありました。彼らは1行の文章から何千字も書く文章まで、オーダーに応じて締切日までに納品してきます。スペースを埋めるだけでなく、中身の質が問われる仕事です。いつも納品される作品を見て、短期間に高い質の文章を書くことに感心させられていました。自分に無い能力を見せられるとうらやましく思います。

自分の感情や考え、思いを文章に限らず何か形にして周りに伝えることは、社会ではとても必要なことだと思えます。「日本人は感情表現が苦手なんだ」と言う人もいます。「日本の教育はインプット中心でアウトプットが軽視されている」と言う人もいます。本当のところは分かりませんが、そうした訓練や経験をもっとし

ておけば良かったなど、この歳になって痛感します。

今年の新人職員研修の場でも、仕事で感じたこと、気づいたこと、得たこと、成長できことなどを日々記録することを薦めました。そしてできれば周りの人に見てもらおう、聞いてもらおう、そうすることで周りの人たちがその人を理解することができそうです。いい仕事はいい人間関係、職場環境から生まれるので、ぜひ若手職員にかぎらず、皆さんに実践してもらいたいと思っています。できない人からやれと言うのも説得力がないですが。

私自身も、自己研鑽じこけんさんのつもりで毎月このコラムを書いていきます。今月も何とかスペースを埋めることができました。締切日は過ぎていきますが…。今月はこれでご勘弁を。

町長コラム

Mayor Column Vol.19

筆おもむくままに

穴水町長 吉村 光輝

